



無意識になる 岩見谷 慎太郎



こし協力隊の募集を紹介していた
だきました。自分に何かできるこ
とがあればと思い、応募しました。
着任してから今までの半年間
は驚きの連続でした。中でも一番
衝撃的だったのが街の「空気に感
ずです。仙北市民の皆さんは生活
において、無意識に隔たりのない
愛、助けあい、偏見なく受け入
れる心、信頼、心の余裕を持って生
活しています。

初めまして。5月に着任した、岩見
谷慎太郎です。出身は横浜市で、18歳
から東京を拠点として活動し、15年間
ほどDJとして世界を周って活動して
いました。

DJは体験を創ることが仕事です
が、新型コロナウイルス感染症感染拡
大が色々なことを考えるきっかけとな
り、自分にしかできない一生に一度、
強烈な思い出に残る音楽体験を創って
みたいと思うようになりました。

そんな中、約20年ぶりに訪れた田沢
湖の大自然に大きな衝撃をもらいまし
た。東京へ戻ってから田沢湖の大き
いのスケールの凄さや、澄んだ空気が
水の綺麗さ、人の温かさが体感として
自分の中に残りました。

田沢湖でなら心に残る音楽体験を
創ることができると確
信し、仙北市を度々訪
れるようになりました。
でも、それだけでは物
足りず、もっと仙北市
のことを知りたくなり、
移住を考えていた所、
自治体の方から地域お



八幡平ドラゴンアイで。

人を思いやる気持ちは、相手のこと
を考え、個々に意識するものではなく、
「空気」として街に根付いていると気
づかれました。この愛に溢れた「空
気」の中で暮らすことで、自分もいつ
か無意識に温かく人に接することがで
きる様になりたいなと思っています。
仙北市には本当に素晴らしい大自
然が沢山あり、常に視界に入り、季節
とともに変化し、柔らかく心を開放し
てくれます。それを更なる大きな音楽
体験に繋げるには、そこに住む人が生
む美しい街の「空気」が必要不可欠だ
と学びました。
着任に至るまで関わってくださった
多くの方々本当に感謝しています。

現在、自分の経験をフ
ルに活かし、色々なこ
とを企画中です。仙北
市、秋田、東北、そして
日本のよさを世界に伝
えるために頑張ります
ので、よろしくお願
いします。

またうら

心豊かな教育文化のまち
《仙北市教育委員会だより》
第133号

ドローンの利活用

仙北市は2015年（平成27年）に
「国家戦略特区」に認定され、ITを
活用した地域課題の解決に取り組ん
でいます。10月4日、角館中学校で「
プログラミングでドローンを操作しよ
う」をテーマとして技術・家庭科の授
業が行われました。

題材の主な目標は、生活や社会の中
から見いだした問題をプログラミング
によって解決する活動を通して、課題
を設定して解決する力を身につけるこ
とや、プログラムの制作および動作の
確認ができるようになることです。本
時はドローンの操作を体験する時間
でした。操作といっても、ラジコンのよ
うに手元で

操作するの
ではありま
せん。タブ
レットでド
ローンに行
わせたい動
きをプログ
ラムして動



プログラミングで飛行するドローン。

堀井小夏さん
今回のプログラミング学習では、グ
ループのメンバーと協力して、ドロー
ンを操作することができました。難し
い課題の時は、相談して解決方法を考
えました。プログラミングが成功して
嬉しかったです。今回の学習を日常生
活でも生かせるようにしたいと思いま
す。

かすのです。班に1台のドローンが割
り当てられ、プログラミングを行
いました。思った通りに動いた時には、
「やった」と歓声が上がりました。思っ
た通りにいかなかった時には、「なぜ
だろう」と思考してやり直す姿が見ら
れました。AIの力とその活用の仕方
について、考えを深めることができました
1時間でした。
藤澤遥陽さん
実際にドローンを操作することは今
回の技術の授業が初めてだったので、
とても新鮮な感じがしました。自分た
ちのグループではドローンの充電が少
なくなってしまう、途中で終わってし
まいましたが、難易度が高い操作にも
挑戦することができたので楽しかった
です。



ICTを活用して発表の様子。



タブレットを使って意見交換の様子。

ICTを活用した授業

9月26日、10月14日の両日、西明寺小
校でICTを活用した授業提示が行われま
した。10月14日は秋田大学の教授など訪
問し、子どもたちや授業の様子を参観しま
した。

現代社会は情報化が急激に進んでいま
す。これに伴い、学校ではICTを活用し
て生きていくことのできる子どもを育て
ていくことが求められています。現代の子
どもたちにとって、「タブレット」は「ノート」
や「鉛筆」と同様の「文房具」になりつ
つあります。

授業では、タブレットを使って自分の意
見を交換し合いました。以前であれば「言
葉による説明だけの意見交換」「模造紙を
使っての意見交換」が主流でしたが、現在
はICTを活用した意見交換に取って代わ
りつつあります。ICTを活用することに
より、(1)資料が作成しやすい、(2)資料を瞬
時に共有できる、(3)意見交換が盛り上がる
などのメリットがあります。今回の授業で
も、そのメリットが十分に生かされ、子ど
もたちの話し合いが活性化していました。

仙北市では今回の授業提示の成果を各校

にしき園だより

— 第30号 —

にしき園は、高齢や病気で身体機能の衰えた方に日常的な医療やリハ
ビリなどを行い、生活機能の維持向上・在宅復帰をめざす施設です

☎にしき園 ☎47-3211

～ にしき園ってどんな施設？（看護部編）～

今回は「にしき園ってどんな施設だろう？老人保健施設ってどういう施
設？」という日常の何気ない「？」のお話をします。

にしき園は「介護老人保健施設」です。介護老人保健施設とは、介護を必
要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために医師による医
学的管理のもと、看護、介護といったケアに加え、理学療法士、作業療法士
によるリハビリテーションや栄養管理された食事や入浴などの日常サービス
まで併せて提供する施設で、以前は「中間施設」といわれていました。

実際は退所して家庭復帰できる方はそう多くはありません。社会的要因
として、利用者の高齢化、核家族化、老人世帯の増加、介護度の重度化な
どが考えられます。厳しい状況下ですが、当施設ではスタッフ一丸となっ
て利用者さまの家庭復帰を目標に、身体機能の維持・増進に努めながら自
立支援のお手伝いをさせていただいています。

感染症予防のため、しばらくの間、ご面会はガラス越しで対応させていただいております。
その際、ハンディインターホンを使用しての会話が可能となりましたのでご利用ください。

【利用者の状況】

9月末	90人
10月入所	2人
10月退所	3人
10月末	89人

平均要介護度 2.82

介護職員を募集しています。
お気軽にお電話ください。



で共有し、さらにICTの利活用にも努め
ます。新時代を切り拓く資質・能力を育成す
る、新時代の学校とするべく、研鑽に励
んでいきます。

先生方の声
子どもにしてみると音声のみの発表に比
べて得られる情報が多く、分かりやすか
たと感じました。また、子どもたちのパ
ンを扱うスキルも育っていると感
じた。ああいう子どもたちが中学校にあ
がってきたときに、どんな授業を行うべきな
かを考えさせられる授業でした。

話し合いが活発で、子どもたちが育っ
ていると感じました。「話す」を超えて、「語る」
「伝える」意識があるのは、普段の積み重
ねの成果だと感じました。

大学関係者から
子どもたちが美しく、健やかに育ち、輝
いている。

ICTの活用により、全体の場面でも
個別の場面でも学びが充実していた。

話し合いによる考えの共有、深化」とい
う市の方針が体現された授業だった。

児童の声
伊藤悠真さん
タブレットに表した自分の考えが、グ
ープのモニターに共有され、すぐに自分の考
えを伝えることができました。説明だけでは伝
わりにくいことも伝わりやすくなりました。

伊藤咲羽さん
当日は自宅からオンラインで参加しま
したが、グループの人たちとの共有画面を指
示しながら、話し合うことができました。画
面越しでも相手が何を伝えようとしているの
がよく分かりました。